

令和2年度病虫害発生予察情報 注意報第3号

令和2年6月24日
岩手県病虫害防除所

ネギハモグリバエ、ネギアザミウマが全県的に多発しています。 圃場をよく観察し、直ちに防除しましょう。

- 1 対象作物、病虫害 : ねぎ、ネギハモグリバエ・ネギアザミウマ
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期(感染時期) : -
- 4 発生量 : 多
- 5 予報の根拠

- (1) ネギハモグリバエは、6月下旬の巡回調査では過去10年間で最も発生圃場率が高く、被害程度も平年よりも高かった(図1、2)。
- (2) ネギアザミウマは、6月下旬の巡回調査で発生圃場率・被害程度ともに平年よりも高かった(図3、4)。
- (3) 向こう1か月(6/20~7/19)の気温は高い予報であり、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマともに発生が懸念される条件である。

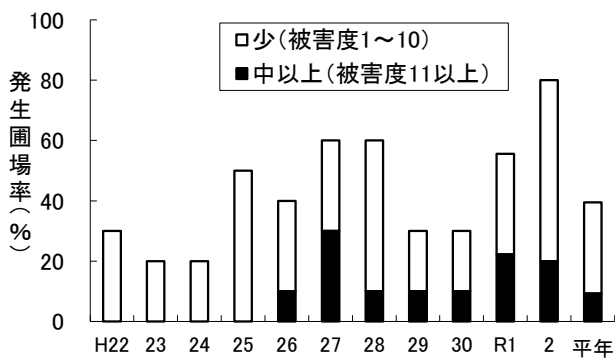


図1 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次別推移(6月下旬)

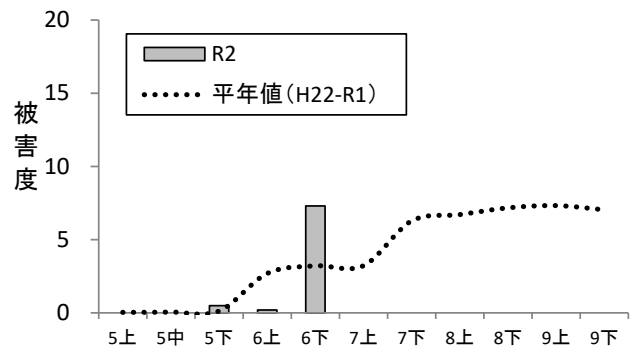


図2 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

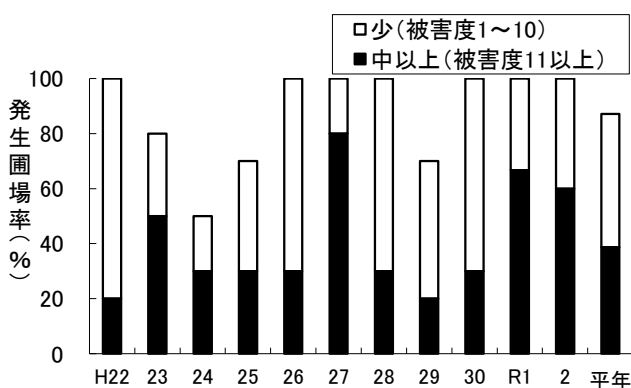


図3 ネギアザミウマの発生圃場率の年次別推移(6月下旬)

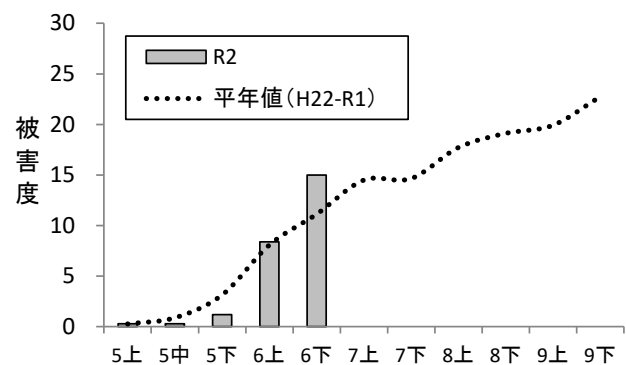


図4 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

6 被害の特徴

【ネギハモグリバエ】

- (1) 幼虫が葉肉内に侵入後、移動しながら食害し、葉に白いすじ状の食害痕が生じる。
- (2) 多発すると葉の大部分が真っ白になり、生育が著しく妨げられる(図5)。

【ネギアザミウマ】

- (1) 吸汁により白いかすり状の斑紋を生じる（図6）。
- (2) 多発すると株全体が白っぽくなり、放置すると下位葉や中位葉が枯死する。



図5 ネギハモグリバエによる被害葉



図6 ネギアザミウマによる被害葉

7 防除対策

【共通事項】

- (1) 圃場をよく観察し、被害の早期発見に努める。
- (2) 茎葉散布は散布ムラが生じないように畝の両側から丁寧に行う。
- (3) 発生源となる被害残渣や雑草等を圃場から持ち出して処分する。

【ネギハモグリバエ】

- (1) 下表を参考に、ネギハモグリバエに適用のある薬剤で防除する。
- (2) 昨年秋期に発生が多かった圃場で多発する傾向があるので、注意が必要である。
- (3) ネギアザミウマの食害も見られる場合、ディアナSCやファインセーブフロアブル、リーフガード 顆粒水和剤等、ネギアザミウマにも適用のある薬剤（下表）を選択する。

【ネギアザミウマ】

- (1) 発生が目立つ場合、ディアナSCやハチハチ乳剤、ファインセーブフロアブル等で防除する。
- (2) 高温条件下では世代の経過が早いため（25℃では16～17日程度で1世代経過）、散布間隔が空かないように散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、下表を参考に、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行う。

表 ねぎのネギハモグリバエ・ネギアザミウマに適用のある農薬

薬剤名	系統名	農薬分類 (IRAC)	適用	
			ネギハモグリバエ	ネギアザミウマ
ディアナSC	スピノシン	5	○	○*
ファインセーブフロアブル	-	-	○	○*
リーフガード顆粒水和剤	ネライストキシシン	14	○	○
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	4A	○	○
ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド	4A	○	○
プレバソンフロアブル5	ジアミド	28	○ ^b	
ハチハチ乳剤	その他	21A		○*
プレオフロアブル	その他	UN		○

^b:ハモグリバエ類で適用 * :アザミウマ類で適用

【利用上の注意】

☆ 農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

- 本資料は、令和2年6月18日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
 - ・ 農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問合せは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット (<https://i-agri.net/Index/gate003>)からご覧いただけます。